

静岡市総合戦略（案）について（概要）

【総合戦略の概要】

「人口ビジョン」による分析を基に、ビジョンに掲げる将来展望の実現に向けた目標や今後5年間（平成27年度から平成31年度まで）の取組をまとめたもの。

【人口目標】

第3次静岡市総合計画に掲げる

2025年に

総人口70万人を維持

を目指す

○合計特殊出生率
→2040年に2.07

○社会移動
→次のターゲットの転入増、転出減を図る。
・若年層(18-25歳、特に女性)
・中堅層(30-40歳代、特に女性)
・アクティブシニア層(55-65歳)

【未来市民】

従来が取組だけでは、市民になりえなかった方々を「未来市民」と総称し、増やしていく。

①これから生まれてくる市民

出生数を増やす・出生率を高める

②これから移住してくる市民

市外からの転入者を増やす

③これからも住み続ける市民

市外への転出者を減らす

【戦略の推進】

・KPIにより客観的な視点から評価し、PDCAサイクルで見直しや改善
・必要なデータ等について、調査を行いKPIの見直しや追加を検討

戦略（基本目標）	静岡市の強み	施策の方向	主な取組
1 「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす 市区町村魅力度ランキング：70位以内 関連施設・イベント入込客数：9,443千人以上	・豊かな地域資源：大道芸、徳川家康公など ・静岡市の日本一（食）：茶、冷凍まぐろ、しらす、さくらえび、わさび、葉しょうが など	・認知度を高める ・交流人口を増やす	・本市が誇る地域資源の磨き上げ（ホビー、大道芸、お茶、まぐろ等） ・「まちは劇場」プロジェクトの推進 など
2 「ひと」を育て、「まち」を活性化する 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童・生徒の割合： 小学校42.0%以上、中学校32.0%以上、高等学校51.0%以上	・人柄がのんびりしている ・高校年代の県外大学進学希望者のUターン意向は37.8% など	・地域への愛着の醸成 ・市内産業が必要とする人材を育成する	・地域の社会課題の解決を担う人材の育成 ・大学等の高等教育機関の誘致や既存大学の学部等新設支援、市立大学の検討 ・大学生向けの地域産業の理解推進や市内就職の促進 など
3 「しごと」を産み出し、雇用を増やす 有効求人倍率： 静岡 全国値+0.3以上、清水 全国値以上	・静岡市の日本一（産業）：まぐろ類缶詰、プラモデル、エアコンディショナ など ・清水港、駿河湾といった海洋資源 ・東名、新東名、中部横断自動車道など交通インフラの充実	・市内経済の活性化 ・雇用の創出	・産学官金連携による中小企業支援、創業支援 ・海洋関連研究機関等の誘致や共同研究による海洋・エネルギー産業の集積 ・首都圏からの本社機能移転や企業立地推進 など
4 移住者を呼び込み、定住を促進する 社会移動増：6,010人（2015-19年）	・山・川・海など自然が豊か ・気候が温暖 ・新幹線で東京から1時間の立地 など	・本市への移住を促進 ・移住者受け入れの核となる人材を育成	・移住希望者に対する情報発信 ・移住希望者等に対し、東京と市内それぞれで相談やサポートをきめ細かく対応 ・中山間地域における空き家活用のための支援や地域おこし協力隊など移住推進
5 女性・若者の活躍を支え、子育ての希望をかなえる 合計特殊出生率：1.57 子どもを産み育てやすいまちだと思える市民の割合：65.0%以上	・首都圏と比べて子育て環境が充実している ・市内大学生による自主的な地域活動が盛ん など	・出生数を増やす ・社会全体で子育てする環境をつくる	・妊娠・出産期から子育て期にわたる切れ目のない支援 ・ワーク・ライフ・バランスの実現 ・女性の雇用、活躍の場の拡大、就職支援、起業支援、環境整備 など
6 時代に合った「まち」をつくり、圏域の連携を深める 総延床面積：個別施設計画策定時に設定 津波避難施設のないエリア：0エリア 建築物の耐震化：公共建築94%、民間住宅93% 静岡地区 歩行者通行量：7,010人 清水地区 滞在時間：3.0時間	・健康寿命が長い ・JR静岡駅周辺に都市機能が集積したコンパクトシティである ・アセットマネジメントに先進的に取り組んでいる など	・総資産量の適正化 ・巨大地震に対する減災の推進 ・コンパクトなまちづくりの推進	・静岡型地域包括ケアシステムやCCRCの構築などによる健康長寿の推進 ・巨大地震や風水害に対する防災体制の整備 ・静岡中部圏の広域連携による地域活性化 ・公的不動産の有効活用やPPP（官民パートナーシップ）事業の実施 など